C H I N A T O U R I S M

中國旅游

中国

世　界　遺　産

承徳の避暑山荘と周辺の仏寺

承德の避暑山荘と周辺の仏寺
世界文化遺産

承德の避暑山荘

避暑山荘はまたの名を承德離宮、または熱河行宮と称され、承德市街の北、武烈河西岸に広がる細長い谷地に所在しており、北京までは230キロメートルで、清代の帝王が夏に避暑したり政務を捌いたりしたところである。清の康熙42年(1703)から乾隆57年(1792)まで、90年に近い歳月をかけて完成させたもの。北京の紫禁城に比べれば、あっさりしていて山村の野趣に満ちており、中国の北方にあるものの、揚子江南岸の景色も重ねてある中国現存の最も大きい封建帝王の御苑である。所在のところは、康熙帝が北への巡幸の途上で発見したもの。ここを選んだ理由には、ここは気候が快適で、景色が素晴らしいだけでなく、特に重要なのは、ここで離宮を建てれば、山海関以南の地はもちろん、北のモンゴル族各部落をコントロールするなどもできる利点があるからと言われている。康熙帝の時は、「36景」といわれる36ヵ所の見所および山荘を囲む城壁を築造した。乾隆帝の時に至っては、「康熙36景」をふまえた「乾隆36景」を増築したほか、山荘の周辺にはまた8つの仏寺を建てた。総面積は564ヘクタールで、全体は宮殿区、湖区、平原区、山並区など4大部分に分かれている。東南に水が多く、西北に山が多いという地形は、宛も中国の地形そのもののようである。1994年、承德の避暑山荘と周辺の仏寺は「世界遺産リスト」に収められている。

承德の外八廟

麗正門

避暑山荘の表玄関にあたる門。清・乾隆19年(1754)に築かれた「乾隆36景」の筆頭になるもの。門前には石獅子と下馬碑が置かれ、赤く塗られた目隠し壁は真正面に立つ。門の上には楼閣が築かれており、その下には3つの出入口が開かれてある。真ん中の出入口の上にかかっている「麗正門」の額は、乾隆帝が手書きしたもの、各民族の団結と国家の富強を示す意味で、漢、満州、モンゴル、チベット、ウィグルの5文字で彫刻されている。

澹泊敬誠殿

麗正門の北にある避暑山荘の本殿。康熙49年(1710)に築かれた。間口7間、奥行き3間の構造で、面積は583平方メートル。窓扉、仕切り壁にはコウモリや卍の字、寿の字、唐草などの文様図案がある。殿前には内・外午門、朝房、楽亭などがあり、裏側に四知書屋、寝宮などがある。内午門は、清代では毎年の秋に猟をする前、弓術のコンクールを行う場所で、門の上にかかっている「避暑山荘」の額は康熙帝が手書きしたもの。東西両壁には、乾隆帝の『閲射六韻』詩が刻されている。殿内は康熙帝が手書きした「澹泊敬誠」の額がかかっている。清代では毎年の万寿祭になると、皇帝がここで各民族の首領や外国の使節を接見した。乾隆45年(1780)、乾隆帝は誕生祝をするために承德に来ている6世パンチャンをここで接見した。

承德の芝径雲堤

承德の芝径雲堤

四知書屋

澹泊敬誠殿の裏側にある。清代では皇帝が群臣や各民族の首領を接見したり、軍機・政務を捌いたり、重要な式典に出る前の着替えをしたりしたところ。5間構造の大殿で、康熙帝はかつて「依清曠」と題名したが、後にはまた「四知書屋」と題して名を改めた。曲がりくねった回廊がある閑静で優雅なところ。

煙波致爽殿

澹泊敬誠殿の裏側にある清代帝王の寝宮。康熙49年(1710)に築かれた「康熙36景」の筆頭になるもの。間口7間、奥行き3間の構造で、康熙帝がかつて「周辺麗しき、十里平たい湖なり、致して爽気を有す」と絶賛したところから名づけられたもの。本殿の東西両側にある小さな庭は、それぞれ皇后や后妃の居所である。清・咸豊10年(1860)、英仏連合軍が北京に攻め込んだとき、皇后や后妃を携えて熱河に逃げ出た咸豊帝はここに住んだ。清の嘉慶帝も咸豊帝もここで病歿した。

雲山勝地楼

煙波致爽殿の裏側にある。清・康熙19年(1710)に築かれた「康熙36景」の8景目にあたる。間口は5間で奥行きは1間。階上に登るのには、築山の段階を利用している。変化に富んだ真正面の湖景色と後ろの美しい山景色を楽しむのに最適な場所。階上西側の部屋は、蓮花室と呼ばれる読経室であって、観音様の玉の彫像が奉納されている。昔は、中秋の節句になると、皇后や后妃たちは必ずといってよくここで月様を祭って幸福を祈願する。楼の北側の岫雲門をくぐると湖につく。

如意洲

山荘の月色江声島の北にある湖中島。面積は3.5万平方メートルで、山荘でも最大の島と主要見所となっている。「康熙36景」と「乾隆36景」の72景のうち、12景がここに所在している。現存の建物はかなり完全な形に保たれており、長い回廊と低い塀で区切られた各見所は、北方の四合院の特色もあるし、揚子江南岸の庭園の特徴もある。主要建物には無暑清涼門(殿)、観蓮所、金蓮映日、延薫山館、一片雲、澹波嶼などが挙げられる。

文津閣

山荘平原区の西部にある。乾隆39年(1774)、浙江寧波範氏の天一閣を真似てつくられた。閣の東側に碑亭「文津閣碑記」がある。閣は、外見は2層で実は3層のレンガと木造の建物で、上にかかっている「文津閣」の額は乾隆帝の題字によったもの。閣前には池があり、池には築山がある。築山の東西にはさらに月台と趣亭がつくられている。建物の配置が合理で厳しく、景色は清らかで静かである。北京故宮の文淵閣、円明園の文源閣、瀋陽故宮の文溯閣とともに「北四閣」と称されており、いずれも皇室蔵書楼である。

承德の月色江声

万樹園

山荘平原区の東北部にある。北は山を控え、南は湖を望んでおり、敷地面積は58ヘクタール。「万樹園」の名は乾隆帝が題したもので、「乾隆36景」の20景目にあたる。園内は芝生が広がり、樹齢の長い老木は生い茂る。南側には乾隆帝が題した「緑毯八韻」詩碑がある。園内は土木の建物がなく、「建物」があると言えば、それもモンゴル族のテントしかない。乾隆帝はかつてここでモンゴル族の首領、チベットの6世パンチャンおよびイギリス、ビルマ、ベトナム、朝鮮、ラオスなどの使節を接見して招宴した。

松鶴斎

澹泊敬誠殿の東側にある。宮殿区と湖区の大切な通路にあたっている。乾隆48年(1749)に築かれたもので、乾隆帝が題名した。乾隆帝の母親・聖憲皇太后と后妃たちの居所で、「乾隆36景」においては3景目にあたっている。門殿、松鶴斎(後に含輝堂に改名)、綏成殿(後に継徳堂に改名)、十七間房、楽寿堂(後に悦性居に改名)、暢遠楼などを含む一組の建物がある。雲山勝地と並んで、湖区景色を楽しむのに最適な場所。

水心榭

山荘の東宮北にある。同じく宮殿区と湖区の大切な通路にあたっている。康熙48年(1709)に築かれたもので、康熙帝が題名した。乾隆19年(1754)、「乾隆36景」の8景目に指定された。下湖と銀湖を跨ぐように建てられており、それをつなぐ橋の上には亭が3つある。南北両側の亭は重厚な屋根を頂いた四角形のもので、真ん中の1つは奥行き3間のもの。東側には、もともとは蘇州の獅子林を真似てつくった文園獅子林があった。園内には16の見所があることから、山荘においては「園の中の園」と称されている。緑の松の木々に覆われた東側の崗には、また魚亭という見所がある。

月色江声

水心榭の北側に浮かんだ楕円形の島に、康熙42年(1703)に築かれた間口3間の東屋。月が高くかかる静かな夜に、波音を楽しむのに最適な場所。長い回廊でつないでいる殿閣には、北方の民家となる四合院の風格がある。西の冷香亭は、夏のハスをめでる場所で、北の静寄山房は、清代の帝王が読書したところ。さらにその裏の塋心堂は清代帝王の書斎である。康熙帝が「満山掩画」と題名した堂裏の四合院にいて、窓を開いて見た景色は最高そのもの。軒を支える殿の外側の柱は、ざっと見ると今にも倒そうとしているが、実は堅実そのものだ。これもここの見ものの1つ。言い伝えでは、このような設計を取ったのは康熙帝本人だと言われている。「上の梁が曲がっていれば、下の梁も歪む」という中国の古い諺で臣下を戒める狙いだと言われている。

外八廟

面積40万平方メートルに及んだ山荘東北の山麓台地にある8つの仏寺。最初は12あるが、現在は普陀宗乗之廟、須彌福壽之廟、普楽寺、普寧寺、安遠廟、溥仁寺、殊像寺しか残っていない。チベットと新疆のラマ教仏寺の風格に建てられており、承徳に来て皇帝を謁見する西域と北方少数民族の上層貴族が仏事を行うのに供する場所。そのうちの8つが清朝政府の直接管理下に置かれているところから、「外八廟」と称されていた。建築風格によっては、チベット風格のもの、漢族風格のものと漢族・チベット族風格のものの3種に分かれている。

承徳の金山島

承徳の普陀宗乗之廟

承徳の普寧寺

大乗之閣の千眼千手観音像

普陀宗乗之廟

山荘の真北にある。清・乾隆32年(1767)、チベットのポタラ宮を真似て築造された。普陀宗乗は、チベット語ではポタラを意味しているところから、またの名を「ミニポタラ」と呼んでいる。建物は山の斜面に従って、きちんとした配置で築かれており、主体建築としての「大紅台」は、台座の高さが42.5メートルで、幅59.7メートル、雄大で空に浮かんだ楼閣と感じさせている。

須彌福壽之廟

山荘の北、普陀宗乗之廟の東にある。清・乾隆45年(1780)、チベット・シガツェのタシロンポ寺を真似て築造された。須彌福壽とは、チベット語ではタシロンポの意味。建物は南北の順に築かれており、手前には石の橋がある。主体建築である大紅台内部の真ん中にある妙高荘厳寺は、6世パンチャンが経文の説教を行う場所で、それを囲んだ周囲の聴講ボックスは段階のように築かれている。大紅台の東側に紅台があり、西側の吉祥法喜殿はパンチャンの寝室となる殿。

安遠廟

俗はイリ廟と称されている。山荘の東北を流れる武烈河東南の崗の上にある。清・乾隆29年（1764)、新疆イリのコルダ廟をまねてつくられた。整った配置にはユニークな風格がある。内外3層の塀で囲まれており、真ん中には重厚な屋根を頂いた3層軒の普渡殿が立っている。

普楽寺

安遠廟の南、山荘東北に広がる平たい崗にある。清・乾隆31年(1766)に築かれた。前後2部分に分かれており、山門から宗印殿までの前部分は、漢民族の伝統的仏寺風格のもので、後部分は廟壇、3重城壁、2重目城壁4隅と真ん中にある5つの瑠璃塔を含んでいる。一番上の平台に築かれた旭光閣は、北京天壇の祈年殿を真似てつくられたもので、八角形屋根の上にある「珠と戯れる2匹の龍」は、金碧に輝き、芸術的価値は極めて高い。

普寧寺

山荘の北にある。清・乾隆20年(1755)に築かれた。大きな木彫りの仏像が奉納されているところから、またの名を「大仏寺」と呼んでいる。漢族、チベット族の仏寺風格を揃えた規模が大きい仏寺である。寺内の大乗之閣は6層軒を頂いた高さ36.75メートルのもので、閣内に奉納された千眼千手観音像は、高さ22.23メートルに及び、松、柏、楡、杉と椴の5種材木を用いたもので、中国に現存する最大の木彫り彫像である。

殊像寺

山荘の北にある。清・乾隆39年(1774)、山西五台山の殊像寺を真似てつくられた。建物は漢族の寺廟風格を主としており、中には文殊菩薩が奉納されている。寺内のラマはいずれも満州族の出身。全体は前後両部分に分かれる。前部分は山

門、鐘鼓楼、天王殿、会乗殿からなっており、このうちの会乗殿は本殿で、殿内には観音、文殊と普賢3菩薩が奉納されている。手前の楠づくりの3層仏龕両側に置かれた万寿塔は、無量仏を奉納するところ。後部分は主に宝相閣、清涼楼、香林室と脇殿からなっており、一角にはこじんまりした築山があり、段階を拾って上に登ることができる。

建築芸術

山荘全体は、地形を巧みに活用する特徴がある。明確に区分された各区には多くの見所を集めており、他の庭園と比べれば、わが独自の風格がある。宮殿区は配置が厳しく、建物にはあっさりした特色がある。湖区は自然の野趣に満ちあふれ、天然の景観と宮殿の美とを一体に集め、自然に復帰した感じを見る人に与えている。黒色レンガと瓦を用いた宮殿やそれを囲む塀は、雄大で光り輝く極色彩の故宮とは、強いコントラストを成している。築造には、中国北方の建築方法を踏襲しながら、中国南方の造園芸術をも導入し、「自然を美とし、自然に順応しているが自然を超越する」という伝統的な造園意識と一致している。「中国地形の縮図」の称がある承徳の避暑山荘は、中国の南方と北方の造園芸術を完璧に結び付けた古代庭園芸術の傑作である。山荘を取り囲んだ周辺の山々に散在している8つの仏寺は、面積が40万平方メートルに達し、宛も空の月を囲んで明るく光る星のようで美しい。

観光のイベント

木蘭囲場森林草原祭

開催時間：6月29日－翌年2月末

主な内容：夏は避暑、騎馬、冬はスキー、狩猟

避暑山荘「九竜酔カップ」竜舟競漕

開催時間：毎年の6月

主な内容：ペロン、落下傘など空中と水上サーカス

味覚

承徳料理は長城以北地区における宮廷料理の代表格と言ってよい。北京の宮廷料理と比べて異なる点があるといえば、承徳料理は主に山の幸を用いていることにある。主要調理法としては、から揚げと香料混ぜ焼きなどが挙げられる。

特色料理：平泉の冷凍ウサギ肉、青竜スッポン、五種香味のシカ肉、承徳地鶏、山の幸のしゃぶしゃぶなど。

風味スナック：シカ肉の串焼き物など。

観光土産

シルク織りのかけ絨毯、承徳木彫り、民間切り紙、布貼り絵など。いずれも収蔵の価値が高い承徳の特産品。

主要レストラン

店名	場所	電話番号(局番 314)
酒源楼	承徳市武烈路 22 号	2022227
翠恵飯店	承徳市石洞子溝路南 2 号	2062316-2002
天和楼	承徳市鐘鼓楼小区	2029901
新乾隆酒楼	承徳市帝景園大廈	2076768
上客堂	承徳市普寧寺	2058889
アラ大酒店	承徳市小佟溝 1 号	2883546
大地酒家	承徳市五廟路東 22 号	2022979
雲山飯店	承徳市半壁山路 2 号	2055588
塞北春飯店	承徳市南営子大街	2135111

主要レクリエーション・センター

店名	場所	電話番号(局番 314)
承徳劇場	承徳市南営子大街	2024320
雲嶺影劇場	承徳市西大街	2181085
群衆映画館	承徳市南営子大街	2027317
清楽宮	承徳市双橋区普寧路 18 号	2051013
泰盛ボーリング	承徳市鐘鼓楼小区 5 号	2050958
承徳目蘭囲場	承徳市満族蒙古族自治県	7802673

主要ショッピングセンター

店名	場所	電話番号(局番 314)
藍島大廈承徳支店	承徳市双橋区武雲橋	2064466
承徳商城	承徳市南営子大街	2061100
百貨商場	承徳市南営子大街	2075606
承徳商廈	承徳市二仙居	2137204
慶豊商場	承徳市居仁里	2023674
晨霞商場	承徳市南営子大街	2082445
金山商場	承徳市火神廟	2025330

鼻煙壺

切り紙

承徳の工芸品

承徳の軽食「手抓羊肉棒」（羊肉の串焼き物）

承徳の荷面ギョウザ

地方オペラ「河北梆子」

ホテル

店名	クラス	場所	電話番号(局番 314)
盛華大酒店	★★★★	承徳市武烈路 22 号	2271000
承徳雲山飯店	★★★★	承徳市半壁山路 2 号	2055588
山荘賓館	★★★	承徳市麗正門 11 号	2025588
承徳市金泰飯店	★★★	承徳市双橋区翠橋路甲 1 号	2069898
承徳外交人員賓館	★★★	承徳市武烈路中段	2021980
承徳露露大酒店	★★★	承徳市翠端橋南 6 号	2068888
承徳会竜大廈	★★★	承徳市駅路新街東路 6 号	2085369

主要旅行社

社名	場所	電話番号
承徳友好国際旅行社	承徳市火神廟徳匯大廈 A 座 806 室	314-2031234
承徳中国国際旅行社有限公司	承徳市中華路 11 号市政府総合ビル	314-2022274
承徳中旅国際旅行社	承徳市武烈路市委総合ビル 2 階	314-2027496
河北康輝国際旅行社有限責任公司	石家荘市中山東路 97 号鉄道大廈 4 階	311-6990158
河北省中国国際旅行社	石家荘市東岡路 26 号	311-5814766
河北郵電国際旅行社有限公司	石家荘市広安大街 45 号副 1 号	311-6673888
河北省中国旅行社有限責任公司	石家荘市育才街 175 号	311-5814570
河北所中国国際旅行社	石家荘市東岡路 26 号	311-5814766

交通

道路：北京の西直門長距離バスターミナルでは、午前6時から午後4時まで30分おきに承徳行のバスがある。承徳発北京行のバスも同じ時間帯で運行。所要時間は約3時間半。

鉄道：承徳駅では北京から全国各地行の切符が買えられる。

市内交通：市内バスの乗車料金は最低1元、最高も5元を超えない。ワンマンカーは1元均一。タクシーは「シャレード」型車がほとんどで、どこにいても雇われる。料金は5元で起算、市内の場合は一般的に10元以内で済む。

全国統一の特殊サービス電話

中国国際電話の頭番号:0086	警察通報先:110	交通事故通報先:122
市内電話番号案内:114	国内長距離電話予約:113	国際電話予約:115
火事通報先:119	救急センター:120	天気予報:12121

中国国家観光局（東京）

東京都港区虎ノ門2-5-2 エアチャイナビル8F

郵便番号：105-0001

電話：03-3591-8686

ファックス：03-3591-6886

中国国家観光局大阪事務所

大阪市浪速区湊町1-4-1OCAT ビル4F

郵便番号：556-0017

電話：06-6635-3280

ファックス：06-6635-3281

中華人民共和国国家観光局

アドレス：北京市建国門内大街甲9号

電話：0086-10-65201114

ファックス：0086-10-65122096

ホームページ：http://www.cnta.gov.cn

CHINA TOURISM

中國旅游

承德の避暑山荘と周辺の仏寺

中华人民共和国国家旅游局
CHINA NATIONAL TOURISM ADMINISTRATION

ご覧いただきありがとうございます！